

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



「運動会の余韻」という「環境」

運動会の「余韻」が残る週明けの園庭は、いつもと違っていた。いや、一般的な小学校の様子と比べてあまりに違っていた。（いつも比べてしまつて御免なさい！）

年長さんは、「リレー」の余韻を楽しんでいた。運動会は自分たちで走順まで決めて納得して終わったはずだが、「もつと走りたい」「スタートもしてみたい」「やっぱり勝ちたい」それぞれの思いが溢れて、誰からともなく「リレーしようよ！」と言い始める。あつという間に人数が集まり、様々な折り合いをつけながらレースをしていた。完全無欠！百パーセント「主体的」な姿である。



年中さんは、心が休まる大好きな自分の遊びを楽しんでいた。それでも運動会までどっぷりと浸りきつて表現していた「魔法のララ」のストーリーには息づいていて、遊びや会話の中のアチこちに散りばめられている。ダンスの曲がかかれば、スイッチオン！魔法にかかったように一斉に踊り出す子どもたち。もはや年中さんの「文化」である。年少さんは、大胆にも年長さんのフラフープの演技を模倣しよう

としていた。フラフープと人間を繋いで一連の輪を作り、ギャロップというステップで回るといふ部分である。共通のイメージが持てているので、皆に声をかける子が現れて、それを理解した子が次々と加わっていった。「完コピ」成功！恐るべし！



実は、小学校には運動会後の「余韻」は殆どない。むしろきつぱりとけじめをつけさせて、次への目標に向かうようにする。運動会後の一ヶ月は、体育の授業さえなかったりするのだ。（授業時数を運動会の練習に集中させるため）それはそれで仕方のないことかもしれない。しかし、幼稚園は「運動会」という行事を、その後の自由な「遊び」の中に落とし込んで、じっくり子どもを育てる場に行っているのだと私は見絶対に無くてはならない時間（極めて意図的な環境の構成）であろう。「なるほど！」またもや「目から鱗」である。



「読み聞かせ」ってどうしてるの？

子どもは絵本が大好きです。「読み聞かせ」に取り組んでいる家庭は沢山あります。私たちは「読み聞かせ」が子どもたちにいい影響を与えているだろうと信じてはいるのですが、「本当に？」と問われると、「きっと・・・」と応えるしかないことにもどかしさを感じるのは私だけでしょうか？もし、「読み聞かせ」の効果や手ごたえが具体的なエピソードとして見えたなら、どんなにか読み手である私たちのモチベーションは上がることでしょう・・・

また、「読み聞かせ」の方法は各家庭で違います。「そんな風にしてるの？」「そんな本も読んでもいいの？」「この本は子どもが喜んだよ！」など、本のセレクトポイントも知りたいところです。読み手の視野を広げるための情報交換の場、甲斐先生を囲んでの座談会が来週の6日（月）にあります。（チラシ配布済み、HP参照）残席あり。当日受付可です。ぜひ、いらして下さい！（9：30～11：00）



待ってました！私の出番！
年長さんの運動会のご褒美は「けん玉」これなら子どもたちに勝てる！・・・って、「5歳の子相手にムキになってどうする！」と突っ込んでください！しかし、大好きなけん玉が幼稚園でもできると思いませんでした。当分の間は子どもたちには負けませんよ！けん玉は「スポーツけん玉」と言って立派なスポーツです。詳しくは別号にて！さあ、やろう！年長さん！

